



日本経済と世界の物価基準に対する考察

令和7年4月17日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

日本経済の強さは、今日の製造業における多様な需要へその生産を与えることができることに
いて、それを否定することはできない。

しかし為替基準と物価基準において現実を判断するとき、グローバリゼーションにおける先端産業
の突出に対して、その比較における判断を得る。

しかしこれらの背後には世界の金融システムと資本が存在することにおいて理解を求めることは可
能である。

これらは世界における資本の移動が、その巨大な資本力において存在するためであり、それらが
為替と物価を決定するものであることは正しいのである。

これらにおいて自由貿易システムから、新たなブロック経済への転換を模索する今日の世界にお
いて、日本の有する製造業の強さは必ず存在するのである。

これら観点から物価と為替の適正化を判断するとき、日本の有する資産は、明らかに安価なのであ
る。

これらは日本買いという新たな現実が将来生まれるかもしれないと予測できる。

これら製造業と多様な生産性から判断するとき、現状の為替と物価基準における現実は、グローバ
ル経済の転換を与えるものであることは理解できる。

これら市場原理は、必ずしも国際金融資本の思惑を表すものではないのである。

それら観点から国家における経済政策を求めることは、適正な経済運営の実現を行うことができ
ると判断できる。

これらはグローバル経済の枠組みと現実への正しい考察であり、それら実体経済を支えるものは必
ず製造業であることは正しいのである。

